

日 時	2022年 8月27日・8月28日
場 所	横浜市立ろう特別支援学校・鶴沼海岸
参加者 (うち障害児)	1日目6名 2日目9名 1日目4名 2日目7名
活動写真・内容など	<p>1日目</p> <p>・陸上競技【午前】 2020東京オリンピック出場経験者の阿部選手、日本ランキング上位(走り幅跳び)の小田選手、2017年サムスンデフリンピック金メダリストの山田真樹選手、2022年デフリンピックで銅メダリストの岡田海緒選手を陸上競技教室の講師として依頼し、障がい児やその関係者に陸上競技の指導をしていただきました。ウォーミングアップ→走るために必要なドリル→ハードル体験→走り幅跳び体験→みんなでリレー→国際大会出場経験の講話という流れで丁寧に指導をしていただきました。</p> <p>講話のあと、子どもたちからの質問が飛び交い、とても貴重で有意義な体験の結果だと感じました。目指すものや自分の生活の中でこれからどうスポーツに携わっていくのかを考えさせられるきっかけになってくれたと感じています。中学生は生活の見直しをしなければ競技力が伸びないことを感じさせられた様子も見うけられました。</p> <p>・デフサッカー競技【午後】 デフサッカー協会のエースである岡田佑也選手に聴覚障害のこと、デフサッカーのこと、自身の苦い経験をしてきたことを話していただきました。自分は聴覚障害があることで、聴者や体格の大きな外国選手と競うにあたって、ハンディそのものをどう補うっていいののかという内容では、子ども達も深く考える時間になったように感じています。</p> <p>最後にリフティングや、ドリブルを習いながら、聞こえないことで感じる障害または壁というものを体感できるようなミニゲームを実施しました。</p> <p>2日目</p> <p>・サーフィン【午前】 鶴沼海岸でサーフィン体験会を実施しました。波のサイズは60センチくらい、風もオフショア(岸から海に吹く風)2メートルくらい。天候は曇り時々雨。波は落ち着いていました。</p> <p>人が多いことで有名な湘南、鶴沼海岸なので接触の心配がありましたが、NSA横浜支部、NSA藤沢支部の協力をいただき子どもが体験していることが分かる規制エリア(赤い旗を砂浜に立てる)を設けていただき、一般のサーファーの皆さまに配慮を呼びかけました。</p> <p>テイクオフ(波に押された後から立つまでの流れのことを言う。)の基本や説明を砂浜で行ってから、実際に海で実践開始です。最初のうちは、波のスプー(崩れた後の白い波のことを言う)に対する抵抗感やどのように立てばいいか戸惑う様子が見られましたが、次第にコツを掴み、波のスピードに乗りながら立てる回数が増えてきました。そして次第に長く波に乗れることもしばしば見られ、泳げなくても、波が恐くても、立ち向かう頑張り</p> 
全体所感	<p>陸上競技ではエキシビションを見たときの子どもの反応がすごく、自分もあんな風に速く走りたい、高く跳びたいという気持ちが湧いてきた様子が見られました。サッカー競技では、目で見ることの大切さを改めて感じさせられた時間になったと思います。合図が聞こえないことで、どう視野を広げていけばいいのかを体験を通しながら考える子どももいました。サーフィンでは、達成感を多く感じ、貴重な体験になったのではないのでしょうか。昼食後の休憩時間の時、もっとやりたいから教えて欲しいと、率先した気持ちが見られ、休憩を挟みながらサーフィン体験を続けました。子ども達の気持ちに大人が教わりました。終了時間になった時はとても残念な様子で、次は？またやりたい！と何度も質問がありました。</p> <p>2日目に関しては、横浜からの貸切バスで現地に直行することで、保護者の方にも安心して参加いただけ、また見学ができたのではないのでしょうか。</p> <p>2日間、事故や怪我もなく、有意義な活動ができたことを報告させていただきます。ありがとうございました</p>